

〔学会〕

第870回千葉医学会例会 第10回千葉精神科集談会

日 時：平成5年1月30日（土） 9：00～18：30

場 所：例会および集談会「ほてい屋」

1. clonazepam の追加投与が有効であった rapid cycling affective disorder の1例

清水栄司, 坂本 忠, 児玉和宏
(千大)
竹田礼子 (松戸市立)
岩崎弘一 (深谷赤十字)

われわれは、27歳の初産後発症で、次第に病相を頻発させ、20年後、躁うつ病相を交互に繰り返した女性の rapid cycling affective disorder の1例を経験した。本症例は、薬物治療に抵抗したが、carbamazepine 600 mg/日に clonazepam 2mg/日を追加投与したところ、寛解に至った。TRH 負荷試験、デキサメサゾン抑制試験などでの内分泌学的異常および脳血流・糖代謝の前頭葉低活性を寛解前後を通して認めたことから、病相頻発型感情障害において視床下部や前頭葉に慢性的な機能変化が起こりうることを示唆された。

2. 家族性ピック病の疑われる1家系

伊藤寿彦, 岡田真一, 池田智昭
児玉和宏, 柳橋雅彦 (千大)

わが国では、初の報告と思われる親子二世代にわたる家族性ピック病の1家系について報告した。父親例は、病理組織診断にて、前頭・側頭型ピック病とされた。特有の人格変化 Denkfaulheit および、超皮質性感覚失語に近い言語障害をみとめた。長女例は、臨床診断にて、前頭型ピック病と考えられた。自発性低下、緘黙状態を認めた。

長男例は、臨床診断にて、前頭・側頭型ピック病と考えられた。

3. 幻覚妄想状態を呈した MELAS 型 ミトコンドリア脳筋症の1例

安藤咲穂, 佐藤真理
(県こども病院)
田辺雄三, 牧野道子
(同・神経科)

MELAS と診断され、9年の経過を経て幻覚妄想状態を呈した19歳の女児症例を報告した。知能の低下と人格水準の低下は、脳血管性痴呆の進行した状態に類似していた。幻覚妄想は原疾患の一部分症状と考えられたが、精神分裂病に見られる自己異質的性質は伴わなかった。症状発現には、患児の精神発達遅滞からくる環境要因への耐性の低さが関与していると考えられた。

4. ハロペリドールの経静脈的投与が原因と思われる咽喉頭ジストニアの1例

森本浩司
(千葉県精神科医療センター)

ハロペリドールの投与中に咽喉頭ジストニアを起こし、その結果呼吸困難を来たして放置していれば窒息死に至ったと思われる症例に遭遇したため、これを報告した。この呼吸困難は、声帯が正中で固定していることが原因とわかった。咽喉頭ジストニアは、ハロペリドールの投与中に起こる突然死の原因の一つと考えることができる。この病態を呈した場合、気管切開や経皮的気管穿刺針の使用は試みる価値があると思われる。

5. 気分障害を対象とした無けいれん性電撃治療について

富山三雄, 中嶋常夫, 浦田重治郎
(国立精神・神経センター国府台病院)

無痙攣性の電撃療法を DSM III-R で mood disorders と診断される症例に施行した。対象は男性5名、女性3名で年齢は、49歳～68歳である。疾患は bipolar dis-